

博士学位論文審査結果の概要

ふりがな 氏名 学位の種類 学位記番号 学位授与年月日 学位論文題目	うらやま あけみ 浦山 晶美 博士（看護学） 博第1号 平成21年3月14日 心理的アプローチとしてVirtues Approach を取り入れた「マタニティークラス」の編成とその効果について
審査委員	主査 石川県立看護大学 教授 西村真実子 副査 石川県立看護大学 教授 佐々木順子 副査 石川県立看護大学 教授 大木秀一
審査結果の概要	
<p>審査および最終試験は平成21年1月9日に行った。以下に、本研究の概要と最終試験の結果を示す。</p> <p>育児不安や困難感を抱え、不適切な養育に陥りやすい母親が増加している。親の養育態度や乳幼児期の体験の質が子どもの成長過程に影響を及ぼし、思春期における心身症や暴力、犯罪などの問題に繋がることが明らかになってきた。また、被虐待経験のある女性が妊娠により情緒不安に陥ることも多く報告されている。本研究は、このような現象に注目し、妊婦への有効な心理的アプローチを明らかにしたいと考えた。</p> <p>心理的アプローチの一方法であるVirtues Approachは、1995年に国連「国際家族年」の最優秀モデル・プログラムとして選出されたVirtues(美德)プロジェクトの方法である。本研究においては、従来のマタニティークラスにVirtues Approachを取り入れ、その効果を準実験デザインで検証した。その結果、マタニティークラス参加前後で妊婦の特性的自己効力感が上がることがわかった。長期的な効果は不明であるが、本研究の結果は当該分野に貢献しうる可能性がある。また、本研究の方法論に致命的な問題はない。しかし、論文記述において不備があったので、審査経過において、特性的自己効力感、自尊感情、夫婦関係満足をVirtues Approachの評価指標とした理由、および特性的自己効力感得点がマタニティークラスへの参加前後で上がった理由などについて、加筆、修正を行なった。</p> <p>また、研究結果の口頭発表とその後の口頭試問により、上記の学生は当該分野の知識を備えていることがわかった。</p> <p>以上により、上記学生は論文審査および最終試験に合格したと判断した。</p>	